



高齢者の外出支援について

政進会 藤澤 菊枝

問 デマンド型交通のえびくるの実証運行が始まり2年がたとうとしています。これまでの実証運行の状況を伺います。

答 (市長) …えびくるは、令和6年6月の運行開始から今年の1月までに延べ2万人以上のご利用があり、大変好評をいただいております。昨年12月からは、利用対象者の拡大や綾瀬市への乗り入れなど運行内容の一部見直しを行い、さらなる検証を行っているところです。令和8年6月以降は、ぬくもり号、さくら号の運行終了に伴い、これまでに以上へえびくるの利用が見込まれることから、車両を増やした上で来年3月まで実証運行期間を延長します。

問 (保健福祉部長) …えびくるは、令和8年1月末時点で利用登録者が2471人、延べ2万1394人の方にご利用いただいております。通院や買物に大変好評をいただいております。昨年12月からは、高齢者に加えて障がい者や妊婦、未就学児連れの保護者にもご利用いただけるようになり、新たな利用対象者は1月末時点で76人の方が利用登録をされて、順調に現在も伸びてきている状況です。

一方、通院などの利用により、平日午前中の予約が取りにくい状況であることは課題として認識しており、そのような時間帯のみ集中的に車両を増車することや、9人まで乗車できるワゴンタイプの車両を導入することも進めてまいります。また、直近のアンケート調査では、予約の取りづらさや予約方法に不安を感じるお声もありましたので、引き続き実証運行の中で検証してまいりますと考えております。

その他の質問

・消防団の現状について



高齢者等外出支援事業について

公明党 戸澤 幸雄

問 令和7年第4回定例会でも質問させていただいたえびくるの料金について低所得世帯の減額に取り組んでいた大きな感謝をしております。5月末で廃止されるぬくもり号、さくら号からえびくるへの移行について、どのような対策をされているのか伺います。

また、えびくるに対する市民からの要望などについてのどのように把握されているのか伺います。

答 (市長) …令和8年6月以降は、ぬくもり号、さくら号の運行終了に伴いえびくるの利用の増加が見込まれることから、車両を増やすとともに、低所得の高齢者については5000円の利用料金を3000円にするなど、一部運行内容の見直しを実施します。

市民からの要望などについては、利用登録者を対象としたアンケートを令和6年8月と令和7年6月の2回実施し、土曜日の運行や付添人の同乗など運行内容の改善につなげております。寄せられた声を検証し、さらなる利便性の向上と高齢者の外出支援の充実を図ってまいります。

問 (保健福祉部長) …これまで以上にえびくるの利用が見込まれる6月以降については、平日午前中の車両を4台から6台に増車し、ぬくもり号、さくら号の利用者を十分に吸収できるよう準備を進めているところです。市民からの要望などについては、これまで利用登録者に向けたアンケート調査を実施しているほか、一度も利用されたことのない方に対してアンケート調査を実施し、利用につながる理由を分析しているところです。

その他の質問

・地域での住民情報の扱いについて  
・公共施設の省エネ対策の進捗状況について



HPVワクチン接種事業、GIGAスクール構想・1人1台端末について

無党派 さの るみ

問 HPVワクチン副反応の疑い報告は他の小児定期接種平均の約7倍で、それを知った上で接種の判断をすることは市民の権利です。市民に判断を委ねると言いつつ判断材料を示さない市の姿勢は誘導と考えますが認識を伺います。

答 (保健福祉次長) …検証が不十分なオープンデータを市の判断で公表しワクチンの危険性を出すことは接種しない方向に導く可能性もあるかと思えます。市は中立的な立場で予防接種法や国が示すガイダンスに基づいた接種事業を行ってまいりたいと考えています。

問 市は国の方針に基づいてワクチン事業を実施していると説明しますが、実際には市の公費による事業です。事実は利害などで都合よく解釈されていくものですが、市は、市民が自ら判断できるように実際に起きている事実を正しい情報として誠実に示す責任があるのではないのでしょうか。

答 (保健福祉次長) …接種判断の参考として接種対象家庭への案内には効果と同程度にリスクも説明した厚労省のリーフレットを同封し、ライブプランを見据えた主体的な決定ができるよう環境整備をしていると認識しています。

問 国は2030年度までのデジタル教科書導入を進めていますが、世界では読解力低下などを背景に紙の教科書の見直しを進め、学びをどう守るかの議論に移っています。今後のデジタルと学びのバランスについて見解を伺います。

答 (教育長) …ICT一辺倒の教育はあり得ないと考えており、ICTは人の会話や読書などと同じように学校教育の学びの一つのアイテムとして学校が揃え、子どもたちが自由に選択できるようにしていかなければいけないと思っています。

